

株式会社インテリジェント ウェーブ
第35期 事業のご報告

2017.7.1 ▶ 2018.6.30

株主通信 VOL. 35



いせき つかさ
代表取締役社長 井関 司

2018年6月期の振り返りをお願いします。

売上高は、中期事業計画で目標としていた100億円を1年前倒しで達成することができました。金融システムソリューション事業において、カードブランドの統合に係る大型開発プロジェクトの売上を計画どおり計上したほか、クラウドサービスも大きく伸長しました。また、キャッシュレス社会の推進が追い風となり、決済手段の多様化に係るシステム開発案件が増加したことも増収に寄与しました。一方で利益については、大型開発プロジェクトの一部工程が不採算化した影響により、前期実績を下回る結果となりました。

新中期事業計画の考え方について教えてください。

次の10年、20年先を視野におき、2019年6月期を「変革スタートの期」と位置付けた新中期事業計画を策定しました。

前計画で掲げた、売上高100億円超を目指す規模の拡大、人材育成、風土改革を柱とした

「進化3way」を継承しつつも、その内容は足元の状況を踏まえ、より進化させています。

如何に世の中が変化しても、ネットワークを通じてデータが運ばれることに変わりはありません。当社の培ってきた技術力を活かすことで、将来、どのようなインフラ、デバイス形態になろうとも「高速・安全・高品質で、利便性の高いIT基盤」を提供し、社会に貢献し続けることが可能です。

当社には、脈々と受け継がれてきた、どんな決済手段にも対応できる高速かつ安全な「止まらないシステム」を構築する技術力があります。新中期事業計画では、当社の技術を金融業界のみならず、幅広い業界のデータ通信に応用することで、人々の生活を支え、次世代の当たり前を導く会社へと進化することを目指します。

売上高100億円超の継続に向けた、具体的な事業戦略をお聞かせください。

金融システムソリューション事業においては、当社の次の成長を牽引する次世代製品の開発と、クラウドサービスの強化を重点施策として取り組んでいます。

次世代製品については、既存のネットワークへの接続に加え、新たな決済サービスなどの多様なネットワークに簡易に接続できるゲートウェイシステムとして、次世代NET+1（ネットプラスワン）の開発を進めています。併せて、オンライン決済などの非対面取引の拡大に対応するため、AI（人工知能）を活用した次世代不正検知システムの開発にも着手しました。いずれにおいても、2019年6月期中の完成を目指します。

クラウドサービスについては、現在展開している「IOASIS（アクワイアリング業務）」「IFINDS（不正検知）」「IGATES（スイッチング）」の3つのサービスが、想定以上の引き合いと成約をいただいています。今期の売上高は対前年比で大幅な増加を見込んでおり、今後も新サービスを拡充していく

ことで、さらなる売上高の増加を目指します。

プロダクトソリューション事業においては、これまで事業を牽引してきた情報漏えい対策システム「CWAT(シーワット)」や標的型攻撃対策システム「Traps(トラップス)」に加えて、サイバー攻撃の対応を自動化する「eyeShare(アイシェア)」や、大量のログデータに隠れた脅威をAIの活用により解析する「SecBI(セックビーアイ)」など、イスラエル製の情報セキュリティ製品を拡充することで、引き続き販売を強化していきます。

企業風土の改革について お聞かせください。

当社の従業員数はこの3年間で100名近く増え、400名体制となりました。一方で、持続的な業績拡大のためには、採用した従業員に対する継続的な育成はもとより、一人ひとりが働きやすい環境の整備や、常に新しいことに挑戦する姿勢を社内に浸透させるための風土改革も重要であると考えます。

職場環境の整備については、従業員の多様性を考慮した働きやすい環境の実現を目指します。2018年4月入社の新卒採用38名のうち、6名は外国籍、16名は女性です。「性別や国境にとらわれない多様な価値観が新しいエネルギーを生み出す」という信念のもと、当社に新たに加わった従業員がその力をいかに発揮できるように、それぞれの個性を尊重した職場環境作りを進めます。例えば、定期的実施する全社アンケートの結果をもとに、人事、労務制度の見直しや新設に積極的に取り組むことにより、従業員満足度の向上を図っています。

風土改革については、進取の気性に富む企業文化の形成を目指します。次の20年、30年先を見据えると、成長を支える新たなキラーシステムの創出が必要不可欠です。そのためには当社の特長である堅実、誠実な社風は保ちつつも、新しいことに積極的に取り組む姿勢を持つ技術者集団へと進化させて

いかなければなりません。2018年7月の組織改編に併せて、各本部長の大幅な世代交代を実施したことも、風土改革の一環です。

今後も、次世代NET+1や次世代不正検知に限らず、新製品、新サービスを社員一人ひとりが積極的に生み出せるような企業文化を築いていきたいと考えています。

2019年6月期の見通しについて お聞かせください。

2019年6月期は、新中期事業計画における「変革スタートの期」であり、当社にとって非常に重要な1年になると考えています。業績面では、大型開発プロジェクトに係る売上高は前年度より減少すると見込んでいるものの、クラウドサービスの伸長や、決済手段の多様化の進展を背景とした開発案件の増加、新たな業界向けのビジネス機会の拡大などにより、売上高100億円超を継続できると考えます。併せて、開発プロジェクトの管理を強化することで、継続的に適正な利益を確保し、伸ばすことができる体制づくりに努めていきます。

株主の皆さまへのメッセージを お願いします。

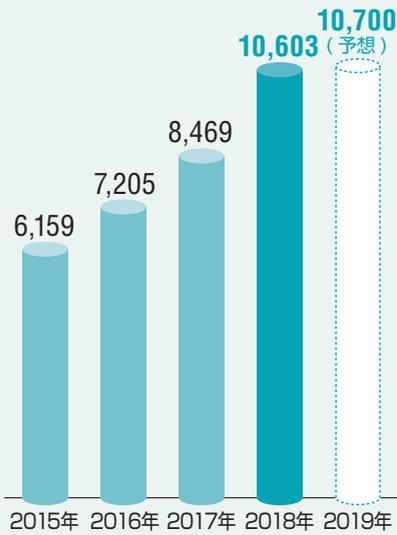
当社は、2018年6月に東京証券取引所市場第二部に市場変更しました。市場変更には、社会的信用度の向上による企業ブランド力の強化という目的だけでなく、従業員に対するメッセージという意味も込めています。当社の従業員に対しては、世の中の生活インフラを支える優秀な技術者集団であることに誇りを持ち、その矜持のもと仕事に携わってほしいと常々考えています。今回の市場変更が「進化3way」に掲げる施策の早期実現につながることを期待しています。

株主の皆さまにおかれましては、引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。

決算ハイライト (単位：百万円)

※個別業績の数値を掲載しています。

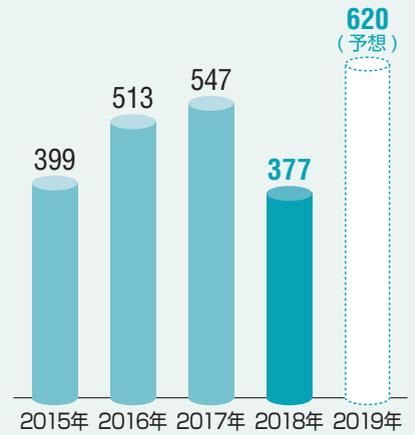
売上高



経常利益

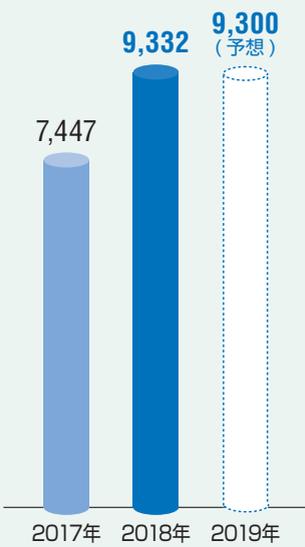


当期純利益

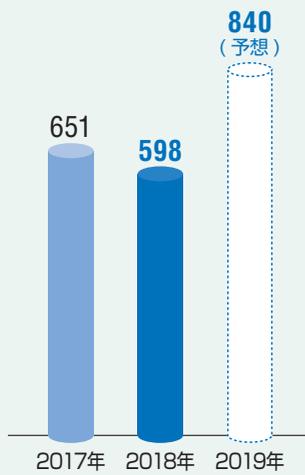


金融システムソリューション事業

売上高

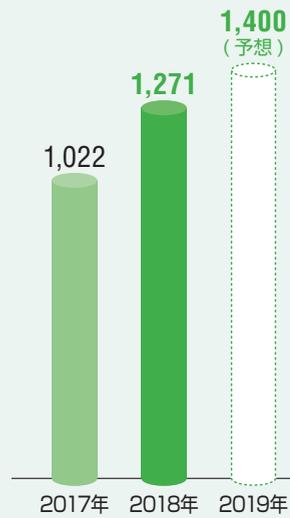


営業利益

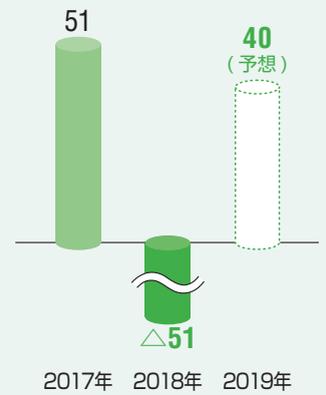


プロダクトソリューション事業

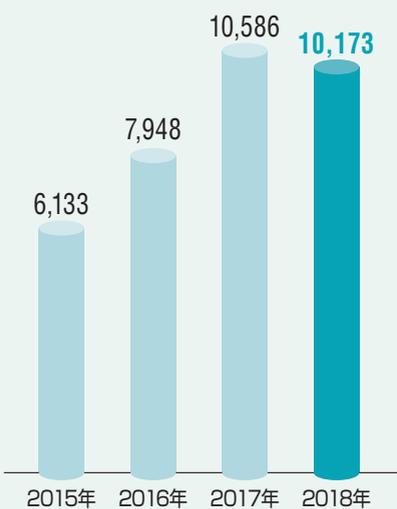
売上高



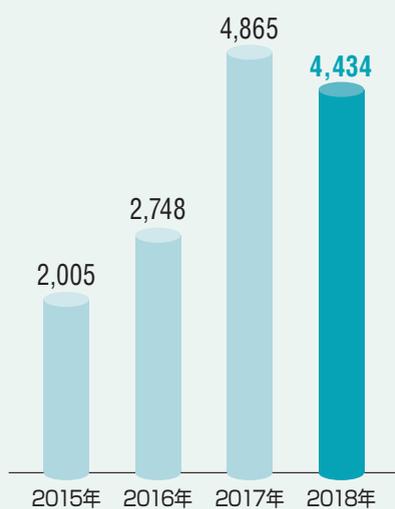
営業利益



受注高

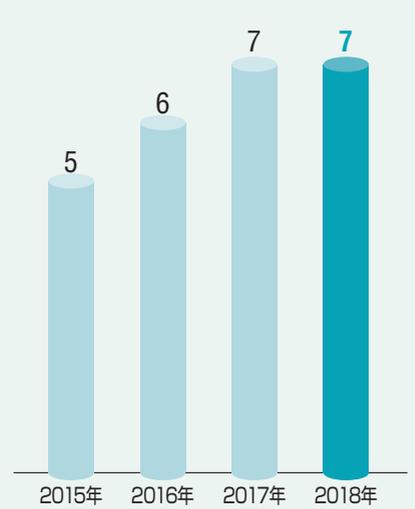


受注残高



配当金

(単位：円)



中期事業計画の策定について (2019年6月期～2021年6月期)

経営指針

“進化3way”

① Road to 10Billion

売上高100億円超を継続、
営業利益10億円の達成

② 人材育成

③ 風土改革

業績計画

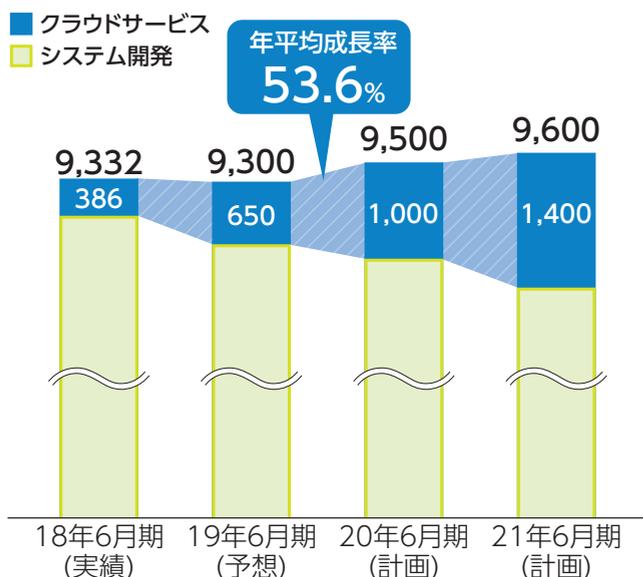
(単位：百万円)

	18年6月期 (実績)	19年6月期 (予想)	20年6月期 (計画)	21年6月期 (計画)
売上高	10,603	10,700	11,000	11,200
営業利益	547	880	930	1,000
営業利益率(%)	5.2	8.2	8.5	8.9

セグメント別戦略 (単位：百万円)

金融システムソリューション事業 次世代製品の開発、クラウドサービスの強化により事業領域を拡大

売上高



クラウドサービス

- IOASIS (アイオアシス)
…アクワイアリング業務
- IFINDS (アイファインズ)
…不正検知
- IGATES (アイゲイツ)
…スイッチング

機能拡充による
新規顧客の獲得

システム開発

- 次世代NET+1
…新たな決済サービスに対応
- 次世代不正検知
…非対面取引の拡大に対応
- IoT
- AI

次の30年を支える
キラーシステムの開発

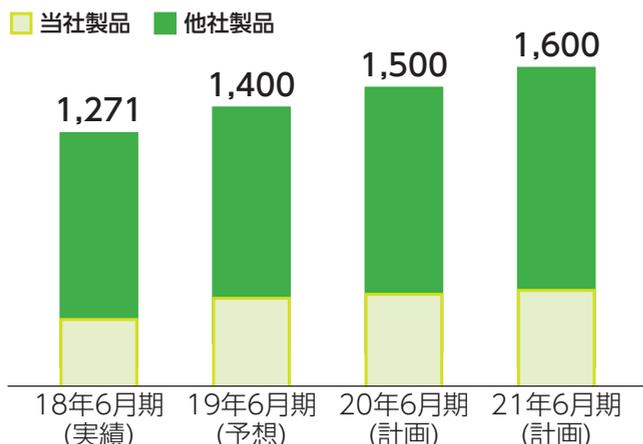
事業領域のさらなる拡大へ

- 金融業…………… QRコード決済への対応
- 決済事業…………… 新規参入企業向けの提案
- 自動車産業…………… IoTに対応した新製品
- 放送事業…………… 高速通信基盤を利用した提案

プロダクトソリューション事業

イスラエル製品の拡充により販売を強化

売上高



当社製品

CWAT[®] (シーワット) **NEW** 2018年6月
最新バージョン5.8をリリース

他社製品

Traps (トラップス) **eyeShare**[™] (アイシェア) **Deceptions Everywhere**[®] (ディセプションズ エブリウェア)

SECBI (セックビーアイ) **NEW** 2018年7月 販売開始

貸借対照表

	2017年6月期 期末	2018年6月期 期末
流動資産	4,984	5,256
固定資産	3,523	3,580
資産合計	8,508	8,837
流動負債	2,252	2,522
固定負債	608	598
負債合計	2,860	3,121
純資産	5,647	5,715
負債純資産合計	8,508	8,837

損益計算書

	2017年 6月期	2018年 6月期
売上高	8,469	10,603
売上原価	6,337	8,381
売上総利益	2,132	2,222
販売費及び一般管理費	1,429	1,675
営業利益	702	547
経常利益	766	573
税引前当期純利益	766	573
当期純利益	547	377

キャッシュ・フロー計算書

	2017年 6月期	2018年 6月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,172	1,213
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,151	△603
財務活動によるキャッシュ・フロー	△198	△348
現金及び現金同等物に係る換算差額	3	0
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△174	261
現金及び現金同等物の期首残高	2,752	2,578
現金及び現金同等物の期末残高	2,578	2,839

会社概要

設立年月 1984年12月
 資本金 8億4,375万円
 従業員数 397名
 ウェブサイト <http://www.iwi.co.jp>

取締役及び監査役 (2018年9月27日現在)

代表取締役社長	井関 司	取締役	渡部 晃
専務取締役	垣東 充	取締役	三木 健一
専務取締役	大山 景司	常勤監査役	白杉 政晴
常務取締役	立野岡 健一	監査役	小川 広将
常務取締役	松田 剛	監査役	大西 恭二
取締役	土井 一郎	監査役	櫻井 通晴
取締役	後藤 泰佐	監査役	佐藤 宏
取締役	川上 晃司		

株式の状況

発行済株式の総数 26,340,000株
 株主総数 9,580名

大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
大日本印刷株式会社	13,330,700	50.61
安達 一彦	2,544,100	9.66
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社 (信託口)	636,000	2.41
インテリジェント ウェイブ 従業員持株会	432,300	1.64
溝田 元一	301,000	1.14

株主メモ

事業年度 毎年7月1日から翌年6月30日まで
 定時株主総会 毎年9月
 期末配当の基準日 6月30日
 株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
 事務取扱場所 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
 電子公告により行います。
 (<http://www.iwi.co.jp>)
 公告方法 但し、事故その他やむを得ない事由によって
 電子公告による公告をすることができない場
 合は、日本経済新聞に掲載いたします。

2018年6月27日、当社は、東京証券取引所JASDAQ (スタンダード)市場から東京証券取引所市場第二部へ市場変更しました。

銘柄略称は、従来の「インテリW」から「IWI」に変更されています。証券コード(4847)に変更はありません。
 (注)「IWI」は、当社名 INTELLIGENT WAVE INC.の略称です。



株式会社インテリジェントウェイブ (証券コード 4847)

〒104-0033 東京都中央区新川1-21-2 茅場町タワー
 Tel.03-6222-7111 (代表)

